

平成25年11月16日

第51 回歴史サークル行事開催報告

当番世話人 川股賢三

11月15日(金)10時45分に曇り空の中、東京都第1本庁舎ロビーに参加者予定者14名全員が集合した。

当初の参加希望者は19名であったが、階段で転倒、運動中の怪我、葬儀と重なるなどがあり、5名が欠席となり、開催日には14名の参加となりました。

これまで歴史サークルでは千葉県とその周辺都市の神社・仏閣を数多く詣できました。詣でた神社・寺院の寂しい境内で、この祭には何万人規模のお参りがあるなどと説明を受けてきました。

同一日に複数の神社・仏閣で開催される祭りは「大酉祭」(酉の市)しか思い浮かず、関東三大酉の市(鷲神社・花園神社・大国魂神社(府中市))の内の新宿の花園神社・浅草の鷲神社・鷲在山長国寺(鷲神社の隣)の二カ所を散策先とした。

酉の市は深夜0時から24時まで開催されており、0時のお参りする人が多いと聞いています。我々も時間的な余裕は十分にある集団ですが、花園神社を詣でた後、夜の新宿の街で始発電車まで起きて過ごす自信がなくて、昼間の参詣とした。

ところで、「酉の市」とは花園神社公式ホームページには次のような説明がされています。

酉の市由来(花園神社 HP より)

江戸時代から続く年中行事で、開運招福・商売繁盛を願うお酉さまは、もと武蔵野国南足立郡花又村(今は足立区花畑町)にある鷲神社にその起源があるとされています。

同社のご祭神は日本武尊(ヤマトタケル)で、その昔、東夷討伐の帰路に花又の地に立ち寄り、戦勝を祝したことが縁で、尊が伊勢の能褒野(ノボノ)で亡くなった後、神社を作りお祀りしたと伝えられています。

中世に後三年の役(1083 年)が起きると、兄源義家を慕って清原一族平定に向かった新羅三郎義光が、武具を奉納し、戦勝を祈願したことから武神として尊崇されるようになりました。江戸時代になると、日本武尊のご命日といわれる11月の酉の日に、武家は綾瀬川を船で上り、町人は徒歩か馬を使って詣でていました。しかし、江戸より遠かったため、千住の赤門寺で「中トリ」、浅草竜泉寺で「初トリ」が行われ、吉原を背景とする浅草の大鳥さま、大鷲神社と隣接する鷲在山長国寺が繁昌するようになりました(天明8年頃=1788 年)。

「酉の市」は関東特有の行事ですが、静岡県浜松でも行われています。かつて徳川家康の駿河国の行事だったものが家康江戸入府とともに伝来したという説もあります。それが前述の起源と結びついて、武神としての信仰から、商人の守り神へと転化されたようです。

日本武尊を祭神とし、尾州徳川家に祀られたと伝わる新宿大鳥神社は、花園神社の境内に鎮座されています。その社紋(神社における家紋)は、「鳳凰の丸」が用いられています。

酉の市には開運熊手守、福財布、破魔矢(あたり矢)が授与されます。新宿の街の発展に伴って参拝する人が増え、浅草お酉さまと並んで山の手随一の賑わいを誇っています。

以上が花園神社の公式ホームページによる酉の市の由来です。

酉の市を徳川家康が江戸に持ち込んだとすれば、徳川御三家の紀州(和歌山市)・尾張(名古屋市)・常陸(水戸市)の旧領国にも現存しているのではとPCで検索すると名古屋市には大須七寺の酉の市、茨城県那珂市の鴻巣鷲神社の「なかなか儲かる酉の市」がヒットした。なぜ、こんなことに関心を寄せたかというと、私の育った関西には酉の市は無く、似たような行事として1月9・10・11日の商売繁盛で笹持って来いの「えびすさん」があります。

大阪の今宮戎や西宮戎が有名です。本来は笹を神社に持って行って、そこに「野の幸」・「山の幸」・「海の幸」を象徴した縁起物の子宝(吉兆)を付けてもらっていた。

今では、笹に吉兆を付けたものを売っています。ちょうど酉の市の縁起熊手と同じ意味合いを持っているのでは？

整理をすると

関西では恵比寿様を祀り、関東では日本武尊を祀る。

関西では毎年1月10日前後の3日間、関東では11月の酉の日に開催。

関西では笹に縁起物をつけるが、関東では熊手に縁起物をつける。

熊手がなぜ使われているかは「お客様や福」をかつ込めるからと言われます。鷲神社の公式ホームページの「鷲神社の由来」では次のような説明がされています。

日本武尊が東夷征討の際、社に立ち寄られ戦勝を祈願し、志を遂げての帰途、社前の松に武具の「熊手」をかけて勝ち戦を祝い、お礼参りをされました。その日が十一月酉の日であったので、この日を鷲神社例祭日と定めたのが酉の祭、「酉の市」です。

本日のスケジュールをスタート、初めに東京都庁南展望台へ一階の展望台専用エレベーターの前で手荷物検査をうけて二班に分かれて展望台に昇る。55秒で45回展望台に到着する。

展望台の北東方向には新宿住友ビル、新宿三井ビル、損保ジャパンビル、新宿センタービルと高層ビル街が望まれ、南東方向には新宿御苑、明治神宮・代々木公園と緑の多い地区が眼下に見られる。南西方向には新宿パークタワー、ランドマークタワー、東京オペラシティーの高層ビル群が見られ。北西方向を含めてすべての方向には見渡せる限り住宅やビルが立ち並び人口集中した東京が一望できた。

曇っているにも関わらず東京スカイツリーと東京タワーが同時に見ることができた。南西方向は晴れた日には大山、富士山が遠望できると案内ボードにあった。



新宿御苑、明治神宮・代々木公園と緑の多い地区



新宿パークタワー、ランドマークタワー、
東京オペラシティーの高層ビル群

45階の展望室から2階ホールに降り、改めて別のエレベーターで32階に昇り、セルフサービスの職員食堂の西洋フードで昼食を楽しんだ。安価に食事料金には大変に味の良い食事が提供されていた。

東京都庁第一本庁舎前で参加者の集合写真を撮影する。雨がぽつぽつと降り出し、当初の靖国通りへ出て徒歩にて花園神社への移動を変更して、第一本庁から地下道を使って丸ノ内線西新宿駅へ、地下鉄で新宿三丁目に移動する。新宿区役所近くで地上に出て雨の中を靖国通りに沿って花園神社に向かう。

参道の手前から清国通り沿いに露店が立ち並び、祭り一色、鳥居をくぐり参道に入ると境内は60店近くの縁起熊店で埋めつくされていた。拝殿には高くまで広告提灯でいっぱい。また、裏道も露店で溢れかえり昔懐かしい村祭りを思い出させた。



清国通り沿いに露店



拝殿を覆い尽くす広告提灯と参加者(六角さん提供)



花園神社境内の縁起熊手の売り場と各種露店(六角さん提供)

ここで、他に予定のある平木夫妻と木頃さんと別れて11名のグループになって地下鉄を利用して入谷駅に移動する。今回の行事で一番心配していたことが生じた。新宿三丁目駅で2名が集団からはぐれて行方不明、行方不明者に携帯電話でメールを送信し、入谷駅3番出口で落ち合うこととする。はぐれた2名が追いつき、雨の中を鷺在山長國寺へ歩む。

浅草西の市は隣同士の鷺在山長國寺と浅草の鷺神社で開催されております。

鷺神社は本来は鷺在山長國寺の末社であった。明治維新時の神仏分離で長國寺と鷺神社に分かれ、元の境内を路地が横切っていて、境界線になっている。

花園神社の西の市より浅草西の市の方が大規模であった。花園神社を上回る縁起物の熊手を取扱う店が一杯で鷺神社・長國寺の境内を埋め尽くしていた。

一般露店は国際通りと並行した神社の裏通りを約1キロ近く立ち並んでいた。

長國寺では三の酉の年限定の火除け守りを授与しており、金700円を支払い「火除け守り」を受けてきました。

「火除け守り」を受ける時に火打石での切り火をして頂きました。

隣の鷺神社では「なでおかめ」と拝殿は長蛇の列、参拝も中々思うように進めなかった。参拝を終わり、こちらでは金1000円を支払い「熊手御守」を受けた。こちらは切り火もなく、なんとなくご利益が少ないような感じがした。

長國寺は正門に鷺神社は拝殿に花園神社と同じく広告提灯が多数奉納されていた。参加者の中には、多数の

縁起熊手は三の酉の市あったとしてもすべて売り切れるはずがなく、その後をどのようにするのか疑問が生じて、担当者に聞くと、酉の市が終わり次第、東京近郊の祭で引き続き販売を続けて年内には完売ができるとのことでした。



長國寺の正門



鷲神社の正門(六角さん提供)



鷲神社の拝殿を埋め尽くす提灯



鷲神社の縁起熊手の露店(六角さん提供)



拝殿から見た鷲神社の正門



左側が「火除け守り」・右側は「熊手御守」

浅草西の市を散策後に国際通り沿って浅草駅に向う、雨が降りつづいていたのでアーケードのある新仲見世を使い日本で一番古い浅草地下街へ。15時30分に地下街を見学して地下鉄浅草駅前が無事に本日の予定行事が終了し解散した。

参加者(敬称略アイウエオ順)

岩田芳秀、宇田川修笹、遠藤哲也、川島省三、川股賢三、木頃勝紀、白岩仙一、住田勝治、田代 周、西長義方、平木行雄、平木七重、古屋榮三、六角 学の14名



東京都庁第一本庁舎前で参加者全員での集合写真